

多言語多文化研究に向けた複合型派遣プログラム
派遣先機関等利用マニュアル

2011 年 10 月 27 日

派遣者氏名（専門分野）	富永悠介 (文化形態論 日本学)
-------------	---------------------

派遣期間	2011 年 8 月 22 日 ~ 2011 年 9 月 5 日
------	----------------------------------

派遣研究機関

国	都市	訪問機関
台湾	台北	国史館

利用マニュアル（利用申請に必要な書類、手続き、リサーチ方法等を記入）

国史館は、その名の通り、「中国」の国史を編纂する機関であり、台湾の行政文書、歴代の総統・副総統に関連する史料などを所蔵・管理している。台湾では行政文書の「数位化」（データファイル化）が進んでいるが、こうした流れを受けて、本来の新店館、台湾文献館に加え、2010年に台北館（数位資源閲覧室）が開館された。しかし、国史館に所蔵されている史料の全てが「数位化」されているわけではない。「数位化」されていない史料は新店館で現物を閲覧しなければならない。今回の調査では、台北館と新店館を訪問したので、この二つを中心に報告する。（また、台湾文献館は、台湾総督府文書、台湾省行政公署文書などを所蔵しており、パソコンを使っての検索・閲覧・プリントアウトが可能である）。



国史館(台北館、数位資源閲覧室)

住所: 台北市長沙街1段2号 (台湾總統府の後側)

開館時間: 月曜日から金曜日、8:30~16:45分 (新店館も同様)

利用方法: 台湾總統府のすぐ後ろに位置する台北館は、日本植民地時代に建てられた西洋式建物の一階にある。建物に入ってすぐ右手に守衛室があるので、そこで入館許可の申請を行う。パスポートなどの身分証明書と引き換えに入館許可のバッチと書類をもらう。閲覧室では、守衛室でもらった書類を職員に渡すと検索用のパソコンへと案内してくれる。前述したが、台北館で閲覧できる文書は「数位化」されているものに限られるが、その場で閲覧し印刷することが可能である（印刷は一枚2元）。だが、史料の二分の一以下の枚数しか印刷することができない。



国史館(新店館)

住所: 台北縣新店市北宜路2段406号

利用方法: 入館までの手続きは台北館と同様だが、注意しなければならないのは「提調時間」（或いは「調檔時間」と呼ばれる規則である。これは①9:30、②10:30、③13:30、④15:00の一日4回で、閲覧申請した文書を届けてくれる時間帯を指している。例えば、11時に閲覧申請した文書は13:30にならないと閲覧することができない。新店館ではこの「提調時間」を念頭に入れ調査を行いたい。また、文書の閲覧申請は国外からパソコンで行うこともできる（写真は[国史館ホームページ](#)より）。